

部 会 報 告

ISO/TC 127/SC 2/WG 30 (ISO 6683 土工機械—シートベルト及びその取付部—性能要求事項及び試験方法) 2018 年 4 月 ベルリン国際作業グループ会議報告

標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会国際専門家 (Expert) 新川 紘史 (コマツ)

国際標準化機構 ISO の専門委員会 TC 127 (土工機械) 傘下の国際作業グループ ISO/TC 127/SC 2/WG 30 (ISO 6683 土工機械—シートベルト及びその取付部—性能要求事項及び試験方法) 作業グループ会議が 2018 年 7 月にイタリア国ローマ市で開催され、協会標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会から国際専門家 (Expert) として出席した新川紘史氏の報告を紹介する。

1 開催日：2018 年 7 月 11 日 (水) ～ 12 日 (木)

2 開催地：イタリア国ローマ市 INAIL 会議室

3 出席者：10 名

イタリア (UNI) 5 名 (コンビナー兼 PL 含む), 米国 (ANSI) 2 名, 英国 (BSI) 1 名, ドイツ (DIN) 1 名 (Web 参加), 日本 (JISC) 1 名

4 会議概要：

- ・コンビナー兼 PL から事前送付された作業案文に基づいて議論を行った。
- ・寄せられた 28 件の各国コメントの審議を実施。うち日本コメントは 10 件。各国意見を検討し、2 引用規格～7 拘束装置の性能要求事項及び試験を中心に議論を行った。

5 議事：

日本から下記 (1)～(6) を提案した。

2 引用規格について

(1) 提案：現行 2005 年版にある SAE J 386 4 項の文言が削除されていたため、文言を元に戻すことを提案した。

結果：一部採用。実際に参照している箇所は 5 の The seat belt assembly のみであり、適用範囲を 4 項ではなく 5 項に変更する。

7 拘束装置の性能要求事項及び試験について

(2) 提案：「シートベルト引張り試験のシート位置について、中間位置で試験を行うことと荷重が最もかかる位置 (worst case position) で行うこと」が記載されている。中間位置に運転席を調整することが難しいことと、worst case position のみで

試験を行えば中間位置の試験は不要ではないかということを提案した。米国、英国からも同様のコメントあり。

結果：採用。中間位置のテストは実施せず、worst case position のみとなった。

変更後の文言：The seat shall be adjusted to the operating position, which produces the most severe condition to the operator restraint system, prior to any subsequent structural deflection.

(3) 提案：「シートマウントが、シートコンポーネントの重量の 4 倍の荷重まで耐えること」に対して、根拠がなければ記載を削除することを提案した。結果：不採用。ISO 3776-2 (農業機械のシートベルトに関する規格) に記載がある。ISO 3776 を適用するかどうかに関しては再度審議する。

(4) 提案：“applicable seat components” の意味が不明確なため、用語を定義する。結果：再審議。コンビナー兼 PL より、転倒時にシートマウントにかかる荷重に影響する重量 (シートの全ての構成品) と提案があったが、WG 内で再度検討することとなった。

(5) 提案：「ベルトリトラクタの場合は、試験中にその最大伸びの 90% ± 5% で展開されなくてはならない。」に対し、試験後に伸びを計測するため、不要であると提案した。米国からも同様のコメントあり。

結果：採用。文章は削除することとなった。米国提案コメント：ANSI 022 にあるように、SAE J 386 の 4 項でベルトリトラクタについての仕様が適用されているとした。

(6) 提案：“Machine reference mass” の定義が不明確なため、定義することを提案した。

結果：再審議。PL からは ISO 3471 の重量を参照するよう提案されたが、試験負荷荷重の計算に使用される数値のため、WG 内で再度検討するこ

ととなった。

5.1 宿題事項

下記 (1)～(3) について各国の意見をまとめ、PL へ回答することとされた。

- (1) シートベルト引張り試験の荷重を下げることに
ついて

今回の改正では試験負荷を現行の 15,000 N のままとするのか、小型機種 (0.5 ton 以上 6 ton 未満) は試験負荷を 15,000 N 以下にしてもよいのか否か。

- (2) 多点式拘束装置について

改めて新業務項目提案を行うか否か。加えるならば、データを提供できるか否か。

- (3) シートベルトの取付範囲について

シートベルトの取付範囲を ISO 3776-1 と整合させるか否か。

5.2 懸案事項

5.1 (1) について、小型機種のみ引張り荷重を下げるか、現状のままとするか各社で審議し、日本としての意見をまとめる。

6 今後のスケジュール

5.1 について～9 月中旬までにコンビナー兼 PL へ回答する。

次回会議：10 月中旬予定

以上

